

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和 6 年 2 月 1 日

事業所名 コペルプラス 藤が丘教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		<ul style="list-style-type: none"> ・個別療育、集団療育どちらも適切な広さの部屋で実施している。 ・発達特性や集団療育の参加人数などに応じて部屋を使い分けている。 	
	②	職員の配置数は適切である	5		<ul style="list-style-type: none"> ・指導員は常に 2 名以上配置されている。 ・有給代休を気兼ねなく取得することが出来る。 ・急な休みにも対応しきれる配置数である。(現在に限る) ・日々の担当療育数もほどよく分担されるようにしている。 	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・来所から入室までの流れをイラストで掲示し視覚的にわかりやすいようにしている。 ・余分なものは配置せず集中して課題に取り組んでいく事が出来るように環境構成をしている。 	

業務改善				・トイレの入り口が段差になっており必ず大人と行くように約束事としている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5	・毎日昼休みと退勤前に掃除を行い清潔を保てるようにしている。	
	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	・カンファレンスは全職員が参加できる日に設定し様子を共有できるようにしている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	・事業所評価は毎年実施している。評価をはじめ、保護者からいただいたお話は全て職員間で共有するよう心掛けている。 ・毎療育後に保護者と共に振り返りを行い、次回以降の療育に反映していくことが出来るようにいただいたお話はすぐに職員間で共有するようにしている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	・事業所評価の結果を HP 上で公開している。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5	第三者評価実施なし

適切な支援の提供	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・社内の研修が定期的に開催され参加している。 ・個々人でも希望があれば受講し資質向上を図っている。 	
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・契約時にアセスメントを行い、お子さまの様子と保護者からの要望から計画を作成している。また、半年ごとにモニタリングを行い継続的に計画更新をしている。 	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・社内の決められたアセスメント専用の教材やシートを使用している。 	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインを基に、お子さまの様子や保護者からのご要望に沿って個々人に合わせて支援内容を考え提供出来るようにしている。 	

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	<ul style="list-style-type: none"> ・療育前に必ず確認し、個々人に合わせた個別支援の課題を取り入れている。 	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で常に情報共有を行っている。 	

⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、毎週教材をローテーションして使用している。 ・発達段階やご要望などを踏まえて適宜個別支援課題を取り入れている。 ・前回の記録に目を通し、プログラム内容が固定化しないように配慮している。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・集団療育を希望される方には提供出来るようにしており、個別支援計画にも組み込んで作成するようにしている。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の朝礼で当日の確認事項などを共有している。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・データと紙媒体で記録を残し、いつでも共有出来るようにしている。 ・緊急を要するものは即時口頭で共有するようにしている。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	<ul style="list-style-type: none"> ・HUG を活用し記録を残し、いつでも職員間で共有できるようになっている。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	<ul style="list-style-type: none"> ・計画期限を迎える前に必ず面談を

				し、これまでの振り返りや新たな要望を伺うなどして計画の更新を行っている。 ・半年ごとに職員間でお子さまの様子を振り返り、成長や今後の課題について考察している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	・児発管が対応したり、直近で療育を担当した指導員が参画することもある。	
	㉑	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	・相談支援員の方と情報を共有したり、サービス担当者会議に出席し情報共有を行っている。	
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5		・該当児無
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5		・該当児無
	㉔	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	・保護者からご要望があればいつでも対応出来るようにしている。	
	㉕	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	・保護者からご要望があれば小学校に提出するサポー	

				トブックを作成している。	
⑳	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		・併用事業所のある場合は情報交換などしている。	
㉑	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		5		・実績は無いが、園と療育を並行して利用していただけるように調整している。

	㉒	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		5		・特に参加はしていない。
	㉓	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		・毎療育後 10 分程度のフィードバックの時間を設け、成長や課題を共有している。	
	㉔	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている		5		・現在は実施していない。
保護者への説明責任等	㉕	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		・契約時に対面、口頭で説明をしている。 ・運営規定は教室に掲示している。	
	㉖	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		・計画作成後、保護者の方と読み合わせを行い同意をいただいてから療育を進めていくようにしている。	
	㉗	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		・保護者からいただいた相談やお悩み等は職員間で共有し、出来るだけ早く対応できるように心がけている。すぐの回答が難しい	

					場合には時間をいただく旨をお伝えするようにしている。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5			・保護者会としての実績は無いが、集団療育やコミュレの際に保護者同士の交流が見られる。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		・お声掛けをいただいたらすぐに別室でお話を伺うようにしている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		・毎月通信の掲示をしたりブログの更新を行っている。 ・毎週末に LINE 配信にて空き状況を伝えたり、適宜全体への連絡事項がある際に LINE 配信を活用している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	5		・鍵付きの書庫で保存している。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		・視覚からわかるようにしている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5			・無料体験レッスンを随時受け付けている。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		・事業所内に掲示し周知していただけるようにしている。 ・職員間でマニュアルの読み合わせ等をおこなっている。	
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		・事業所の訓練の他にビル全体の訓	

				練にも参加している。	
④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に必ず確認するようにしている。 ・毎朝の朝礼でアレルギーのあるお子さまの確認を行っている。 	
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5			・医師の指示書が必要なアレルギー児の在籍は無い。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		・事業所内をはじめ、全国の教室の事例が共有されている。	
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		・社内研修を受講している。	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		・契約時に説明し必ず同意をいただくようにしている。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。